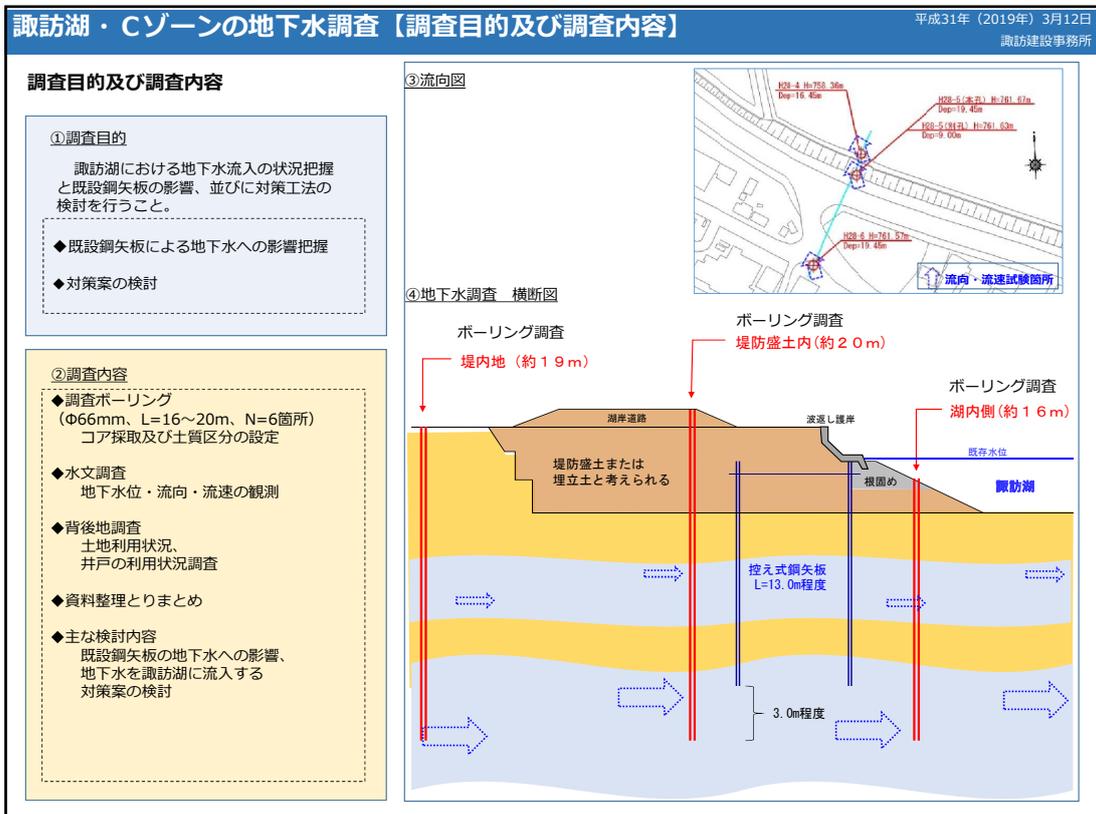


諏訪湖Cゾーンの地下水調査

諏訪建設事務所



調査結果について

本調査箇所（Cゾーン）においては

- 浅い砂質土層及び砂礫層において地下水が滞水しわずかに流れている状況。
- 鋼矢板を挟んだ前後で流向は同一方向を示している。
- 土層の透水係数は低く、鋼矢板の継ぎ手部の透水係数と同程度である。
- 鋼矢板より深い砂礫層においても地下水の流動が確認された。
- 湖底測量にて釜穴の状況について調査を行ったが、釜穴の特定には至らなかった。

専門家意見

- 本調査箇所に設置されている鋼矢板が、本来湖に流入するはずの地下水の流動を大きく阻害し湖に悪影響を与えているという可能性は小さい。
- 今回の結果で、全ての鋼矢板について、諏訪湖に悪影響を与えていないと一般化することは少し難しい。
- 別方向からの地下水の調査も参考としては。
- 周辺の井戸の地下水位の調査をして、その分布状況、湖水位との関係性を調査する。
- 調査地点についてもう少し検討した方がいいのでは。
(候補地：岡谷側の扇状地、横河川流域、塚間川流域、豊田側の扇状地)

考察

本調査箇所（Cゾーン）においては

- 鋼矢板が地下水の流動を阻害している可能性は低い。
- 釜穴の消失と鋼矢板の関連性については不明。

今後の予定

諏訪湖周辺の井戸や流入している河川の状況等を調べる水文調査を実施予定。